



—東地中海地域ニュース—

イスラエル：国連人権理事会でのゴールドストーン報告書採決への反応

(10月18-19日付現地報道)

10月16日に国連人権理事会は、(ガザ戦争でのイスラエル軍による戦争犯罪を報告した)ゴールドストーン報告書を支持する決議を採択した。18日付および19日付現地各紙は、イスラエル側の反応について、次のように報じている。

1. 和平プロセスの今後

- (1) 10月17日、首相側近は国連人権理事会における今般の決議採択によってパレスチナ側との交渉が延期されることはないが、領土の交渉を複雑にし、合意への道のりは困難になるであろうと述べた。
- (2) 同日、政府高官は、PAが同報告書の採択を押し進めたため、外交プロセスの行方が厳しくなり、従って、ロシアが長年望んでいたモスクワでの中東和平会議の開催は危ぶまれると述べた。ダニ・アヤロン副外相は、今般のロシアの賛成は同会議の開催に向けた後押しとはならないと述べた。
- (3) 同日、ユバル・シュタイニッツ財務相は、今般の採択を「反ユダヤ主義」と非難した他、あらゆる国際会議の舞台でイスラエルを攻撃しようとするPAを非難し、財政支援及びPA開発の継続についてイスラエルは検討せざるを得ないと述べた。

2. 対ロシア外交

- (1) 外務省高官によれば、イスラエルは賛成票を投じたロシアに対して抗議のメッセージを送った。
- (2) ロシアとの戦略対話を進め、同報告書が発表されてから約10回にわたってロシアに支持をしないよう働きかけてきたリバーマン外相にとっては、採択の前に約束した内容に反する行動をとったラブロフ・ロシア外相から「顔に泥を塗られる」こととなった。
- (3) 採択後、ラブロフ・ロシア外相はリバーマン外相あてのロシアの立場を説明したメッセージを送ったが、リバーマン外相はこの受領を拒否した。その後、ピョートル・ステグニー在イスラエル・ロシア大使がピンハス・アビニ外務省中欧・ユーラシア担当次官補に対して同メッセージを伝えた。同大使は、今般はやむを得ず賛成したが、今後同報告書に関する議論が安全保障理事会や国際司法裁判所へ移されることには反対すると述べた。